青木の風

生きる　創る　そして輝く

学校だより７月号

令和８年６月３０日

横浜市立青木小学校

挨拶で広がる温かなつながり

副　校　長　山田　宗資

梅雨の晴れ間に夏の日差しが感じられる季節となりました。校庭の木々もいっそう青々としています。学校では水泳学習が始まり、子どもたちの元気な声がプールから聞こえてきます。

６月は、登校の時刻に台風による暴風雨に見舞われたり、下校時刻に大雨や雹が降ったりするなど、悪天候により子どもたちの登下校が心配される状況がありました。また、近隣での出来事に伴う登下校対応などもあり、保護者の皆様、地域の皆様には、子どもたちの安全な登下校に関して、様々な場面でご理解、ご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

さて、6月12日、13日、14日に洲崎大神祭礼が行われました。各地域の神酒所を回りながら、子どもたちが大きな掛け声で山車を引いたり、お神輿を担いだりする様子を見て、大変微笑ましく感じました。学校では見ることのできない姿から、この経験は子どもたちにとって一生心に残る思い出になることと思います。地域の伝統行事に関わるこうした経験は、子どもたちの心の豊かさや郷土への愛着を育む大切な機会でもあると感じました。

神酒所を回り、地域の方々とお話しする中で、「青木の子は、よく挨拶するよ。」という言葉をいただきました。4月に青木小に着任した私も、同様のことを感じております。登下校や校内で顔を合わせた際など、清々しい挨拶ができる子が多くいます。これは、ご家庭や地域で日々温かく声を掛けていただいていること、そして学校での指導の積み重ねの成果であると感じています。

先日行われた「よこはま平和スピーチコンテスト神奈川区選考会」では、本校代表の6年生が「温かさが伝わるもの」というテーマで挨拶について発表しました。その中で、「挨拶は『あなたに会えてうれしい』という気持ちを伝えるもの」と表現しており、大変心に残りました。

挨拶には、人と人との距離を縮め、安心感や信頼関係を生み出す力があります。挨拶が交わされることで、そこに関わる人々の間に温かなつながりが生まれ、その積み重ねが学校や地域の雰囲気をよりよいものにしていきます。また、自ら進んで挨拶をすることは、相手の存在を認め、大切にしようとする心の表れであり、思いやりや社会性を育む第一歩でもあります。さらに、こうした日々の積み重ねは、子どもたちが将来、社会の中で人と関わりながら生きていくうえでの大切な基盤となっていくものと考えています。

挨拶が自然に交わされる学校、そして地域へと広がり、青木のまち全体が温かい雰囲気に包まれていくことを願っています。これからも、地域・家庭・学校が手を携えながら、挨拶の輪を広げ、子どもたちを温かく見守り支えていきたいと考えています。